

2023年秋号

元気おおとよ新聞

令和5年10月1日発行 NO.43

10年目だけど第7回

レイホク・ゴロワーズ2023

10年前の2014年から始まった、レイホク・ゴロワーズ。今回が10回目の記念の大会になる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で、2020、2021、2022の3年間は中止となった結果、10年目だけど第7回、の真相です。

レイホク・ゴロワーズとは？

1989年に世界で初めて開催されたアドベンチャーレース「レイド・ゴロワーズ」をモジって命名された、嶺北地域で行う小学生対象のアドベンチャーレースのこと。

アドベンチャーレースとは？

山、川、海など自然のフィールドにおいて、多種目なアウトドア競技（トレッキング、トレイルランニング、マウンテンバイク、カヤック、ラフティング、SUP、オリエンテーリングなど）をこなしながら、ゴールを目指すレース。数名のチーム（女性が必ず入る）で行われることが多い。

3日間のスケジュール

1日目 大豊町・川口体育館

午前：オリエンテーション

チーム対抗レクリエーション

午後：吉野川ファミリーコースにてラフティング

宿泊：学校に泊まるう！みどりの時計台

2日目 本山町・吉野クライミングセンター

午前：クライミング・リレー

午後：汗見川遊泳場でカヌー&SUP → 雨で変更

土佐町体育館にて、スポーツ雪合戦&ドッジボール

宿泊：土佐町・おこぜハウス

3日目 土佐町・早明浦森林公園～さめうら道の駅

午前：マウンテンバイクのタイムトライアル

午後：早明浦森林公園～道の駅土佐さめうらまで、
トレイルランニング



チームワークがレースの鍵に

レースのためのチームメンバーは当日初めて発表されます。1年生から6年生まで、学年も学校もシャッフルしたチームを作りました。

初日のレクリエーションからポイントが付き、ラフティング、クライミング、カヌー、SUP、マウンテンバイクなどの競技でポイントを重ね、最終種目のトレイルランは、獲得ポイント最上位のチームからスタートしていきます。

その後は、2位・30秒後、3位・1分後と30秒ごとの繰り下げスタートになります。ゴールに入ったチームがそのまま最終順位になりますので、トレイルランまでのポイントが非常に重要になってきます。

アクティビティーのポイントだけでなく、毎回の整列の早いチーム順にポイントが付いたりするので、チームワークが劣っているとポイントが低くなります。遊び、楽しみ、競い合い、コミュニケーションの中にチームビルディングという要素も入って、非常に貴重な体験ができるプログラムでした。〔裏面に続く〕



お問い合わせ

080-8635-2253

(水曜9:00~15:00)

ホームページ

<http://www.genki-otoyo.org/>

特定非営利活動法人 元気おおとよ

元気おおとよは、大豊を元気にする民間団体です。
移住促進／地域交流／集落維持などに取り組んでいます。

ここでは、わがままや独りよがりは通用しません。レイホク・ゴロワーズの精神である『一人はみんなのために、みんなは一人のために』の考え方が必要となり、この3日間で子供たちは変わっていきます。

初めはぎこちなかったメンバーが徐々に打ち解け、上級生はリーダーシップを発揮するようになり、下級生は体力の限界まで必死についていく様を思い出すだけでもウルウルしてきます。毎回、子供たちから感動をもらっています。

企画連載

空き家を考える

第3回 早期決断が必要な理由

今回は適切な相続ができていないため、いざ売却や賃貸をしたいときに手遅れになってしまうことを事例とともに紹介しましたが、今回は、空き家を活用するうえで早期決断が重要である理由について、その一つをご紹介します。

家を売却するという決断

ここでは空き家の持ち主が家を売却したいと考えたときを前提としてお話しします。例えば、同じ300万円の価値の家を持っている「Aさん」「Bさん」がいるとしましょう。

Aさん



- 実家が空き家になったのを機に売却を検討している。
- 実家には愛着があるが、自身は別に家を建てたので、実家を受け継ぐ予定はない。
- 誰かこの家を気に入ってくれる人に売却したい。

- 実家が5年前から空き家になっていたが、先祖代々の家であり、当時は法事や年に数回親族が帰ってくることを考えて年に数回の維持管理をしていた。
- しかし、最近は高齢化により管理ができなくなったため、売却することに決めた。

この2人のもとに、空き家購入希望者の「Cさん」が相談に訪れます。

Cさん



- 予算は500万円。
- 予算内で、理想の家にするためにリフォームしたい。

物件の価値が激減してしまう仕組み

「A物件」は空き家になって間もなく売却を希望したので

4年ぶりに開催できた今年のゴロワーズは、サポートスタッフが増え、保護者の方々には、平日にもかかわらず、食事の準備・片付け・写真撮影などにもご協力もいただきました。補助金やご寄付・土佐町さんの送迎バスなど、周囲のサポートのおかげで、無事に大成功に終わりました。

この素晴らしいイベントのことを、嶺北地域の皆さんに知ってもらい、これからも応援・協力してもらいたと思います。かけがえのない、地域の子供たちのために。（野田由美子）

修繕の必要がなく、購入希望者のCさんは購入後のリフォーム代と合わせて予算500万円に収まりそう。



「B物件」は、空き家になってから時間が経っているため、屋根や水回りなどの修繕が必要です。この例では、購入希望者のCさんが修繕費を負担する前提です。そのため、B物件の全体費用が600万円となり、Cさんは予算オーバーとなりました。そこでCさんは売買価格を300万円から200万円に値下げして欲しいとの交渉が行われることになりました。



このように売却という空き家の行く末の一つを取ってしても、早期に決断することで大きな違いがあるのです。

気持ちと時間、どちらも大切に

持ち主としてはお金の問題ではなく、先祖代々引き継いできた家なので、大切に扱いたいと考えるのは正しいお気持ちだと思います。しかし、現実として自身が高齢化し、協力してくれる親族が近くにいないため、気持ちとは裏腹に管理が難しくなっているのではないのでしょうか。

B物件の例のように、持ち主側の思い出や愛着としての価値である希望価格も年月とともに減少していきます。売却相手も予算（修繕やリホーム代も含めた）がありますので、うまく折り合いをつける必要があります。

当然、譲歩せずこだわりを持って売却相手を探すことも一つの選択です。しかし、その間は維持管理をしなければならず、物件の価値は減少し続け、体力的にも金銭的にも年々負担になっていくことになります。

誤解しないでいただきたいのは、これはどちらが正しい選択かという話ではありません。Aさんの早期決断は勇気のいるものだと思いますし、Bさんは納得が行くまでご自身の実家を守られた結果であるならば何も問題はないと思います。

早めのご相談を

空き家について気になることがある方は、ぜひNPO法人元氣おおとよの空き家相談をご活用ください。今すぐ結論付ける必要はありませんが、少しずつでもご自身の空き家について考えていただけたらと思います。（猪野大助）